

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年4月25日現在

機関番号：14303

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520325

研究課題名（和文） 影響と創造性—大岡昇平におけるスタンダールの場合

研究課題名（英文） Reception and creativity - The case of Stendhal in Ôoka Shôhei's works -

研究代表者

ジュリ ブロック (Julie BROCK, P.)

京都工芸繊維大学・工芸科学研究科・教授

研究者番号：70293983

研究成果の概要(和文):本プロジェクトにおいて明らかにしたのは、大岡昇平が日本の文学を、戦前の世界の一つの到達点まで、日本と西洋の近代性の交差に至るまで導いたことであった。小説とは何か、小説家とは何か。こういった美学的かつ倫理的な問いに答えることを暗に目指して大岡はスタンダール作品の読解・翻訳・研究において研鑽を重ねたのである。彼の文学的営為は未だ十分に認められてはいないが、将来的には世界文学として認められるに違いない。

研究成果の概要(英文): We have demonstrated that the fruitfulness of Ôoka Shôhei's reading of Stendhal together with his translation and critical assessment of his work have been the starting point of an ethical and aesthetic revelation which decided on the personal orientation of his own personal creative work. Today, Ôoka Shôhei's work is far from being sufficiently recognized, and some aspects as regard his work are still obscure. But we have proved that this writer has led Japanese literature to the final point of achievement of the ancient world, to the meeting point of Japanese and Western modern civilizations and to the threshold of a new world that mankind could build: a world shared by everyone and under the responsibility of everyone. To produce such an outstanding work in world literature, he obviously needed an extraordinary strength and lucidity. He acquired the surplus of awareness he needed to fully develop as a writer by immersing himself in his predecessor's work, thus acknowledging himself as an heir to Stendhal. In a sense, his work is the result of an association of two society observers, two engaged intellectuals and two writers with the same love for literature.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：比較文学

科研費の分科・細目：文学、各国文学・文学論

キーワード：比較文学、大岡昇平、スタンダール、近現代日本文学、仏文学、文学史、文芸批評、文学と社会

1. 研究開始当初の背景

報告者は、これまで主に日本文学研究の観点から、安部公房の作品をその研究対象としてきた。その次の段階として、日本文学からさらに比較文学の観点へと拡大を目指し、研究対象として選定したのが大岡昇平であった。なぜなら、この作家は戦後日本を代表する作家として知られており、同時にスタンダールの研究家であり翻訳者であった。その約60年（1933-1988）におよぶ浩瀚な研究において、その対象とされたのはスタンダールの著作のみならず、西洋の広い文献にわたるものであった。こうした成果は『わがスタンダール』（初版1973年、立風書房、その後出版社を変え三度再版された）に結実された。報告者はこの著作を読んだ折に、大岡がスタンダールにとどまらず、日本における西洋文学の受容について、さらには戦後のみならず明治から近現代にわたる日本文学について非常に豊かな知識を備えていることに気づき、こうした情報をすべて研究の対象とすることは個人研究の範囲を凌駕するものだとわかり、共同研究が必要だと感じた。そこで京都国際高等研究所において「日本近現代文学におけるスタンダール」というテーマで研究会を開催した。その中では、個人研究として『わがスタンダール』の分析・翻訳をもとに、日本におけるスタンダール受容についてのみならず、大岡昇平の受容についても、すなわち受容というテーマそのものについて研究を行った。この研究の独創的な点は、読者の立場を優先し、時代によって読者の見方や思考がいかに変遷したかを考察している点である。

2. 研究の目的

本研究は、大岡昇平の著作を対象に、彼が西洋文学から受けた影響を、単なる影響に留まらず、如何にして独自の創造性へと発展させ、普遍性を持つ文学作品へと昇華させたかを明らかにする。

3. 研究の方法

まず大岡昇平の作品についての研究の現状を把握するため、大岡に関する国内外の既往研究を調査・整理し、大岡研究の実態の明確化、および本研究と直に関わる資料の選定を行う。次に、『わがスタンダール』の読解・分析・仏語翻訳およびそれに関する引用出典と論文自体の出版経歴のデータベースも本計画に含まれている。最後に大岡昇平に関する批評およびスタンダールの著書に限らずそれに対する評論（日仏問わず）の調査を行う。

4. 研究成果

- (1)設備設置、調査、データベース作成。必要設備を設置、マガジンプラス及び、国立国会図書館（NDL）を利用し、国内の既往研究文献調査をデータベース化し分析を行った。分析方法としては約1000件に及ぶデータを、大岡作品に関し時系列において分類し、作品別の評論の推移に焦点を当て分析した。また大岡昇平の代表的作品『野火』、『俘虜記』、『武蔵野夫人』などについて、それぞれにも焦点をあて、分析を行った。
- (2)『わがスタンダール』の読解・分析・仏語翻訳作成。大岡昇平論文集『わがスタンダール』における日本のスタンダール受容および、フランスのスタンダール評論を調査した。翻訳は全体（約400頁）を完了。これに応じる大岡の引用出典と論文自体の出版経歴をデータベース化（作家、翻訳家、評論家、日仏合わせ約500件）をした。
- (3)関連資料の調査・収集・分析。『わがスタンダール』中に挙げられる全ての日仏文学作品および評論文のリストをデータベース化した（データベースは全て日仏語版を作成）。
- (4)必要文献の収集と照合。上述で得られた文献のうち、研究上必要なものを選択、現物収集・複写を実施（文献複写、現物収集合わせ約200件）。まず『わがスタンダール』における出典を明確にするため、それぞれの原文および、収集した文献との照合を実施した。次に大岡の既往研究において、大岡の作品ごとに目次を作成し、整理した。
- (5)インタビューの実施と情報収集・分析。スタンダールの専門家である西川長夫氏、フィリップ・バルティエ氏、ベアトリス・ディディエ氏、大岡昇平の専門家である星野絃一郎氏、桜井均氏、花崎育代氏、関塚誠氏、『武蔵野夫人』の日仏翻訳者であるテリー・マレ氏、比較文学者であるフランソワ・ルセルク氏ら9名の研究発表に参加し、その際の議論の総括を執筆した。
- (6)成果報告。発展として国際高等研究所において、「受容から創造性へー近現代日本文学におけるスタンダールの場合」と題す研究会を2009年に発足し、その後三年間先導した。その基礎となる本研究の「大岡昇平におけるスタンダール」を中心に「受容と創造性」を巡る研究の意義と概要について引き続き発表した（この三年間、研究会を6回実施）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

- (1) ジュリー・ブロック、« Stendhal (1783-1842)

- Traduit et présenté par Julie Brock » 「スタンダール (1783-1842)」、翻訳と解説/ジュリー・ブロック、*Du Japon*『日本より』、フィリップ・フォレスト編、NRF、ガリマール出版、2012年3月、p.174-184 (査読有り)

(2)ジュリー・ブロック、« Aperçu thématique de la réception de Stendhal au Japon d'après Ôoka Shôhei - Un idéal politique en toile de fond » 「大岡昇平の論文「日本のスタンダール」にみる受容史の主題系と社会的観念についての問題点」、*Réception et créativité*『受容と創造性—日本近現代文学におけるスタンダールの場合』、ジュリー・ブロック編、ピーター・ラング出版、2011年9月、p.35-44 (査読有り)

(3)ジュリー・ブロック、« La position la plus fondamentale d'Ôoka Shôhei, lecteur et critique de Stendhal » 「スタンダール読者・批評家としての大岡昇平 彼の「根本的な態度」について」、*Réception et créativité*『受容と創造性—日本近現代文学におけるスタンダールの場合』、ジュリー・ブロック編、ピーター・ラング出版、2011年9月、p.149-158 (査読有り)

(4)ジュリー・ブロック、« Sur la réception des Feux d'Ôoka Shôhei » 「大岡昇平『野火』の受容」、*Réception et créativité*『受容と創造性—日本近現代文学におけるスタンダールの場合』、ジュリー・ブロック編、ピーター・ラング出版、2011年9月、p.265-278 (査読有り)

(5)ジュリー・ブロック、« Ôoka Shôhei, stendhalien » 「スタンダール研究者大岡昇平」、*L'Année stendhalienne*、9号、2010年9月、p.363-381 (査読有り)

[学会発表] (計9件)

(1)ジュリー・ブロック 「『武蔵野夫人』の受容について——ふたつの「合評」をめぐる考察」(2011年12月4日) 国際高等研究所 「受容から創造性へ—近現代日本文学におけるスタンダールの場合」研究プロジェクト)

(2)ジュリー・ブロック、« Aperçu de la critique publiée au Japon sur *La Dame de Musashino* - une visée synchrétique de l'amour dans la création romanesque d'Ôoka Shôhei » 『武蔵野夫人』に関する日本での批評について 大岡昇平の小説創造における諸教混淆的な恋愛観 (2010年12月17日 フランス日本研究大会議 国立東洋言語文化大学)

(3)ジュリー・ブロック、「大岡昇平『わがスタンダール』を翻訳する 引用の効果」(2010年11月13日 国際高等研究所 「受容から創造性へ—近現代日本文学におけるスタンダールの場合」研究プロジェクト)

(4)ジュリー・ブロック、「『野火』の創作におけるヴェルレーヌの作用」(2010年7月2日 国際高等研究所 「受容から創造性へ—近現代日本文学におけるスタンダールの場

合」研究プロジェクト)

(5)ジュリー・ブロック、「大岡昇平『野火』についての研究—現状と展望」(2010年3月5日 国際高等研究所 「受容から創造性へ—近現代日本文学におけるスタンダールの場合」研究プロジェクト)

(6)ジュリー・ブロック、「人間たちが分かちあう世界 ジュリアン・ソレルとクレープの奥方」(2009年11月14日 国際高等研究所 「受容から創造性へ—近現代日本文学におけるスタンダールの場合」研究プロジェクト)

(7)ジュリー・ブロック、「スタンダールの読者・批評家としての大岡昇平—その根本的な態度」(2009年11月13日 国際高等研究所 「受容から創造性へ—近現代日本文学におけるスタンダールの場合」研究プロジェクト)

(8)ジュリー・ブロック、「大岡昇平の論文「日本のスタンダール」にみる受容史の主題系と社会的観念についての問題点」(2009年5月29日 研究プロジェクト「受容から創造性へ—近現代日本文学におけるスタンダールの場合」国際高等研究所)

(9)ジュリー・ブロック、スタンダール研究者大岡昇平 (2009年5月23日 スタンダール研究会 早稲田大学)

[図書] (計1件)

(1)ジュリー・ブロック、*Réception et créativité, le cas de Stendhal dans la littérature japonaise moderne et contemporaine* 『受容と創造性—日本近現代文学におけるスタンダールの場合』、ジュリー・ブロック編、ピーター・ラング出版、2011年9月、362頁

[その他]

ホームページ等

(1)http://www.peterlang.com/download/datasheet/62575/datasheet_431031.pdf

(2)<http://effet-de-vie.org/comptes-rendus/22-comptes-rendus/49-julie-brock-compte-rendu-de-reception-et-creativite>

(3)<http://www.decitre.fr/livres/Reception-et-creativite.aspx/9783034310314>

(4)http://www.iias.or.jp/research/project/2010_05.html

(5)<http://kaken.nii.ac.jp/ja/p/20520325/2010/4/ja>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

ジュリー ブロック (Julie BROCK, P.)

京都工芸繊維大学・工芸科学研究科・教授
研究者番号：70293983

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：